

ふれあい・コンタクト

円山動物園ボランティア会
代表世話役 上田 得一

動物と出会い、人と触れ合っ心ときめきをコーディネートするために

ニュースレター

< H21年度の活動に当たり = ご挨拶 = >

ボランティア会代表世話役 上田得一

平成21年度の代表世話役に再任されましたので、宜しくお願いたします。今年度は72名でのスタートと昨年に比べ大幅減ですが園では現在7期生の募集を行っており、夏休み頃には新しい仲間を迎えられる事と期待しております。

今年も「円山動物園春まつり」を始め数多くの行事が計画されていますし、種類が日本一多いドキドキ体験メニューも用意されています。これらの行事やキーパーさん達との活動に可能な限り協力していきたいと思ひます。

07年度に発表された基本計画によりますと、今年度は「野生復帰ゾーン」と「自然体験ゾーン」の公開が計画されています。新しい施設や設備が出来る事はそれだけ私達の活動の場が増え、入園者との接触も密になって行くものと思ひます。昨年の活動記録を見ますと実質稼働人数は60数名でしたので、みんなで協力しあう事によって昨年以上の活動が出来るものと期待しています。

私達の活動も昨年10周年を迎えましたが、「おもてなし日本一」を目指す円山動物園を応援し、お手伝いするため、尚一層の研鑽に励んで行きましよう。



円山動物園新園長 酒井裕司

日頃、ボランティア活動で当園へのご協力及びご支援いただき、ありがとうございます。

これまで円山動物園は、札幌市民のレジャー、レクリエーション施設として発展してきました。環境の世紀といわれる21世紀を迎え、これからは環境教育の拠点として、市民一人ひとりが身近な場所で環境問題と自らの日常生活とのつながりに気づき、地球環境を守るための具体的な行動を起こしていけるよう、来園者に環境に関するメッセージを伝える必要があります。

ボランティア要綱では、展示動物の解説等を通じて入園者へのサービス向上と動物園の事業の一層の充実を図り、もって社会教育・環境教育に貢献することが活動の目的とされています。来園者に環境に関するメッセージを伝えるには、動物解説案内の充実が益々重要になると考えます。今年度は、動物解説案内を一層充実させるため、第7期生のボランティアを募集したところです。円山動物園ボランティアは、市内でも有数のボランティアとして、動物園にはなくてはならない存在に成長しました。札幌市民をはじめ来園者が、誇りをもって「わたしの動物園」と自慢できる動物園とするため、ボランティアの皆様のご協力を心からお願い申し上げます。



< ホッキョクグマの双子の赤ちゃんお披露目 >

首を長くして待っていた3月20日のお披露目の日がやっと来ました。この日は、空から白い物が落ちてきて天気の神様も、その誕生を祝っている様でした。会場の「世界のクマ館」では、上田市長から札幌トヨペット（株）へ感謝状の贈呈式があり、その後市長の発声でカウントダウンが行われ「白くまの赤ちゃんー」と全員で叫び、いよいよオリの扉が開けられました。周りには200名を超える来園者が、固唾を呑んで待っていました。最初はララが単独で顔を出し、オリの中へ入る行動を繰り返した後、いよいよ1頭の赤ちゃんを連れて登場しました。その時は一斉に歓声があがりました。午後になり親子3頭一緒に姿を現した時が最高潮でした。ララの後を追って雪の上で遊ぶ、可愛らしい双子の仕様に来園者の皆さんは満足した事と思ひます。DNA判定により雌雄が判別し名前が決まれば、益々道民の皆様から親しまれるでしょう。（世界のクマ班 福田 努）



< H21年度ボランティア総会開催される >

4月12日、H21年度円山動物園ボランティア会総会が行われ、新年度の活動方針・予算が決定されました。又、各班の世話役も決定され、代表世話役に上田得一、副代表に水戸久仁子、竹尾昌己が選出されました。最後に全員で記念撮影を行いました。（こども動物園班 小熊 瞳）

< ぼくチンパンジーの「アッキー」です >

1月18日、ぼくの命名式がチンパンジー館で行われ、名前が「アッキー」と決まりました。ぼくは去年の10月28日、トニーお父さんとチャコお母さんの子供として生まれました。愛称は172件も寄せられ、特に、お父さんやお母さんの名前にちなんだもの、生まれた季節の秋にちなんだもの等が多かったようです。その中で「アッキー」が選ばれました。理由は「誕生月の季節感がピッタリで、誰にでも覚えやすい事」でした。命名者の長内麻帆磨ちゃん（小学6年）にはチンパンジーの親子のぬいぐるみが贈られました。まだまだ、お母さんに甘えて抱っこされているけど、早くファミリーの皆と一緒に元気で遊ぶ姿をお見せ出来れば...と思っています。これからは名前で呼んでください。よろしくネ・・・。



(類人猿班 伊藤 剛)



< サンデーセミナー(干支の動物達・ウシとエランド) >

1月11日、動物園プラザにて、2009年「丑年」にちなみ、セミナーが開催されました。同時に“2009年干支展”も行われ、沢山のお客様が参加しました。エランド担当の松田飼育員からレイヨウ類で一番大きいエランドの特長やラッシュとプッチョの近況「2頭は大変仲が良く、入園して4日目から同居出来た等々」について解説があり、上野係長からは「ウシは今から5000年程前には家畜として人間に飼われていた」等の興味溢れる解説がありました。干支展でも興味満載。ウシは鼻紋で固体登録を行う。しっぽの動きで気分や状況を読み取れる。クギや金属を食べて胃に穴が開くのを防ぐため第2の胃に磁石を飲ませる。切歯（門歯）が無い。等々「ヘー！」が沢山有りました。(その後、嬉しい事に3月3日プッチョとラッシュの間に女の子が生まれました。めでたいめでたい)

(熱帯動物班 水戸久仁子)

< アニマルファミリー(弟路郎君のお誕生日会) >

オランウータンの弟路郎君が1月26日に満12歳に。その前日の25日、お誕生日会がアニマルファミリー84組のうち28名が参加され、にぎやかに開催。渡辺飼育課長と吉田キーパーが「昨年より一段と大人になり、ほっぺのビラビラ（正式にはフランジ）が大きくなりました」と弟路郎君の成長振りを話されました。ファミリーの皆さんはリンゴ・バナナ・イチゴ・パイナップルなど25kgにも及ぶプレゼント。いくら食い溜めのきくオランウータンでもさすがに一度には無理。1日のメニューは、体重200kg（現在：約120kg）を越えないように考えられているので、特別な日のご馳走も頂いたプレゼントの8分の1の3kgまで。嬉しそうにバナナをほおばる弟路郎君を見ながら吉田キーパーから「オランウータンの毛は人と同じで伸び続けるし、爪や指紋も人に近いんだよ。」と伺い、おまけに、いつも弟路郎君が遊んでいる屋外放飼場で同じようにプランコ体験をしたファミリーの皆さんは大満足でした。最後に、弟路郎君の嫌いな食べ物は何？（答：アボカドとピーマン）



(こども動物園班 高橋淑子)



< 楽しいイベント(雪だるま作り) >

冬のイベント「スノーフェスティバル」の一環としてボランティア会では、2月7・8両日来園者に雪だるま作りを楽しんでいただきました。今冬の札幌は気温が高く、雨も降って雪質、量共大変心配でしたが、奇しくも開催前日になって何と40cmもの雪が降り積もり、一転当日は朝から青空の絶好の日和。全員高揚感に包まれての開店準備。より多くの子供達に参加してもらう為、主に頭部の雪玉づくりと飾り付けをしてもらいました。楽しげに作業し出来上がった作品を自慢げにカメラに収める親子の姿に、お世話できた満足感と「来年も又！」という元気をもらいました。二日間で約200個の雪だるまを作りましたが、外国人の参加者も多く、特に雪の無い国の人達は、初めての体験に喜びもひとしおの感で国際親善にも一役買ったと自負しています。最後に各班、各人の強力なサポートには感謝・感謝でした。

(世界のクマ班 鳥山 要)

< サンデーセミナー(コモドオオトカゲ) >

2月8日、動物園プラザで爬虫類館担当の本田飼育員によるセミナーが行われました。お話では「コモドオオトカゲは、1912年オランダの飛行機不時着でその存在が偶然発見され、生態が知られ、まだ100年。3m近い巨体になったのは諸説あるが、新生代以前に大型の食物を採っていた事や天敵が無かった為と言われている。視覚、嗅覚、スタミナに勝れ獲物を何日でも追い回す事が出来、又死肉も食べるので口腔内には50種類もの細菌が棲み、噛まれた獲物は敗血症で死に至るそうです。現地では7月に交尾、9月に約30個産卵、8ヶ月で孵化。幼体は大人の捕食から逃れるために孵化すると、すぐ木の上に登り一年近く、自分で餌を採りそこで生活するそうです。寿命は50年。現在、円山動物園で預かり展示の「コナン・コニ」のペアは大変仲が良く繁殖が期待されています。生まれた卵はインドネシアの物になるそうですが、当園に居る間の繁殖、研究が成功すると良いですね。



(爬虫類班 小笠原和子)



<サンデーセミナー(レディは3歳になりました)>

2月22日、「レディ、3歳を振り返る」と題して飼育員の祐川さんによる動物講座が動物プラザで行われ、大きな画面に写し出されるレディの成長記録に、改めて感動や涙を貰いました。特に、在りし日のエリサお母さんに抱かれていた幸せそうな、生後2ヶ月のレディの映像には、すすり泣きもれました。「最近の復帰訓練では、大人のスージー小母さん、チャコ小母さん達と、上手くお付き合い出来る様になり、群の中に居る時間が長くなって、成長の証を感じ取ることが出来る。でも、まだ至らない事があり、時々大人を怒らせて、手足を噛まれたりする」等の話もありました。その後、チンパンジー館に移り、園で用意したバースディケーキと「ハッピーバースディレディ」の大合唱で、レディの3歳を祝いました。最後に、祐川さんの「本当の復帰訓練終了には、後、2年位かかります・・・」の報告に、飼育の難しさを感じました。(類人猿班 伊藤 剛)

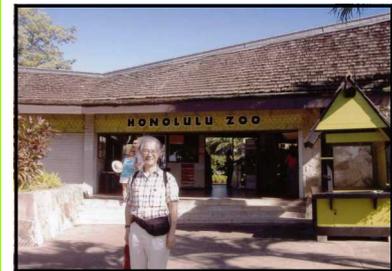
<サンデーセミナー(1/25)(北海道の森の動物たち)>

弓山飼育員から北海道の動物分布の特徴とブラキストン線(津軽海峡を境とする動物分布境界線)の関係説明から始まり、次に開拓による森林伐採や狩猟等でエゾシカが減り、これを餌としていたエゾオオカミが家畜も襲うようになり、害獣として捕殺され明治時代には絶滅してしまった。この為エゾオオカミを頂点とする食物連鎖が崩れて、天敵の居なくなったエゾシカが増えすぎて森林など植生に悪影響を及ぼすようになり、農業被害も深刻になった事等が話されました。後半は足利飼育員のエゾヒグマの話で、36歳のエイコが32頭も子どもを生んだ事に驚かされ、また来年4月にオープン予定のエゾヒグマ館の詳しい説明等もあり期待が膨らみました。最後に全員でエゾシカ・エゾオオカミ舎に移動、キナコとジェイを見ながら質疑応答、楽しく勉強が出来ました。



(世界のクマ班 山川泰弘)

<ホノルル動物園満喫の旅>



12月にハワイのホノルル動物園に行きました。ホノルル市内からバスで10分の所に位置し、広さは円山動物園より少し大きい位です。料金は大人8ドル。金、土曜は夜間営業があり、専門のガイド付きで14ドルです。ハワイの固有種400種以上の鳥、哺乳類等がいます。動物の種類は少ないですが、どの放飼場も大変広くて、ゆっくりと動き回る姿が見られます。檻に入れられた動物はほとんど居ません。ゾウ、ゴリラ、サイ等も全てつがいでした。キリンが4頭もいる一方で熊が1頭もいなかったのが残念でした。円山と同様にヤギや仔牛たちと触れ合う事も出来ます。ゆっくりと園内を巡りながら円山に思いを馳せ、私自身これからはガイドをしながらか他人を思いやり、気遣う事を学び、同時に子供やお年寄り達にとって心の安らぐ円山動物園にしたいと願って帰って来ました。

(世界のクマ班 竹尾昌己)

<スネークアート展で活動>

年度末の忙しい中、今年は『スネークアートマニアックス』と名前を変えて3日間(3/20~22)に濃縮されました。ビルマニシキヘビの触れ合い、セミナー、最終日はもちろん千石先生の講演会。我が班も負けじと参加したのは、昨年大好評だった「爬虫類班特製のグッズ大放送」で、子供より大人のほうが燃えるという伝説のサイコロ転がしです。園内放送と共に集まる人々。この時ばかりはホッキョクグマの双子ちゃん人気を抜き、爬虫類館の室温、湿度急上昇。「ゴロゴロ」「キャー当たったぁ」で、静かな環境に慣れている蛇は何事かと覗いている。半年間、みんなで作り貯めてきた人気品ベスト3は、(1)噛まれると抜けない蛇人形(2)差し歯にもできるガビアルモドキのレプリカ歯(3)お金持ちになりたい脱皮カード...ですかね。午前、午後各100名づつと限定したのに、400個以上のグッズが出た理由は、イベントを行っている私達は算数ができなかったのか?いえ、多分お客様以上に楽しんでいたのでしょう。「来年も、また、燃え尽きようね!」と誓いあった爬虫類班でした。



(爬虫類班 浅川良美)

<動物のウンコをくらべてみよう>

1月17日~2月11日、センター入り口で動物14種類のウンコが展示され、そのヒミツが明かされました。そのポロポロウンコのわけ:食べられる弱い草食動物はウンコをしている途中で襲われても、逃げながら出来るようにウンコはポロポロなんだよ。その反すう動物のおなかのヒミツ:ウシ等の反すう動物は4つの胃を持っており一度飲み込んだ草を再び、口の中に戻して細かく噛み砕いているんだ。この胃にはヒトが消化できない草を消化するためのヒミツがかくされているんだ。その動物のトイレってどこ?:木の上にする動物は木の上からウンコを落とす・主に草食動物は、たれ流しにする・タヌキは「ためぐそ」といわれる共同トイレを作るよ・モグラやプレーリードックは巣の中。トイレ専用の部屋も作るよ・コウモリはウンコするとき、頭を上におしりを下にするんだよ・アザラシは水の中ですることが多いよ。今後もウンコの秘密に迫ってみてネ。

(熱帯動物班 水戸久仁子)

増ページ記念特集 「10周年記念に寄せて」(一期生の投稿記事)

<お客様に喜ばれる場を提供したい>

動物園ボランティアに参加し苦節十年が過ぎようとしています。最初は解説方法が身に付かず、実際に動物を説明した後で反省してみると改めるべき事が多く、辛くて投げ出してしまいそうな時もあったが、飼育の方に「俺だって初めは同じ、早くて2,3年の時間が必要なんだ」と言って下さった事が支えとなりました。また多くのボランティアの皆さんからも色々な知識を与えて頂きました。お客様との対話では、その方の経験を伺い参考になる事も沢山ありました。お客様も私も今日は「良かった」と納得出来る様に、今後共一層、研修に励み、よりお客様に喜ばれる場を提供出来る様に努力していきたいと思っています。(こども動物園班 小熊 瞳)

<おもてなしの心で…>

私は以前、学生実習で臨時職員として円山動物園に5年間お世話になった事がありました。そして何か昔の恩返しが出来ればと思い、ボランティアになりました。しかし20数年ぶりの動物園は旧態依然としていて、ある意味失望しました。が、3年前に金沢園長はじめ新しいスタッフによって今後の動物園のあるべき姿と使命が示され、徐々にではありますが改革が進められています。その中で私たちボランティアは「おもてなしの心」を常に持ち来園者サービスに努めなければなりません。私も自分自身を律し、来園者と共に生涯学習の一環としてこれからも動物園を楽しみたいと思います。(こども動物園班 佐藤賢州)

<ボランティア1期生として>

ボランティアとしてのやりがいは?・・・ご案内したお客様に「また来ます」と言って頂くこと。なぜボランティアになったの?・・・円山動物園が好きだから。お気に入りの動物は?・・・一つに決められません。今後の目標は?・・・「円山動物園のことなら何でも聞いて!」と言えること。いつまで続ける?・・・「辞めなさい」と言われるまで。・・・こんな気持ちで活動をして早10年、これからもよろしく願いいたします。(こども動物園班 高橋淑子)

<あっと云う間の10年…>

長尾元園長の創設によるボランティアに応募し、8回の講座を緊張の中にも受講したのを昨日の様に思い出します。園内飼育の動物達や野生動物の事等を学びました。その後いろいろと職員の方々に教えて頂きながらガイドも行い、あっと云う間の楽しい10年でした。関係者の皆様には本当に感謝しています。ボランティア活動の中では「日本動物園水族館協会」から繁殖賞を数々授賞している事や、世界的快挙の希少動物「ヨウスコウワニ」の2度目の誕生等が印象深いです。いろいろな動物の可愛いこども達に直面出来る楽しみも多く、今後も出来る限り活動に励みたいと思っています。(こども動物園班 手代木敏子)

<動物達の幸せを見届けたい>

自転車で円山に通う事10年「よくやるね」と自分で感心している(笑)。私には動物好きになった理由の秘めた思いつきがある。それは10歳の夏、移動動物園の象を見に学校から帰ると一人で広場へと急いだ。群集の中の私に手招きして象に乗せてくれた。その時の興奮でひきつった顔の懐かしい写真は何処にいったか見当たらないが、象は「花子」だったと今でも信じている。ツアーガイドは正直苦手であるが、市民の皆さんには円山の素晴らしさを、そして何よりも動物達の幸せを見届けに、今年も風を切って走ってきまーす。(こども動物園班 松山幸子)

<楽しかった寸劇…>

ボランティアは当初、類人猿館、熱帯動物館、こども動物園、サル山の4つの班でスタートしました。サル山班は人数が少なく、全員が役割を持ち、世話役会にも交替で出席しました。1年が過ぎ全体の活動発表会があり、班全員で「ある日のサル山」と言う寸劇をやり楽しかった事を覚えています。ニュースレターも内容的にも充実し、面白く、身になる記事、話題に毎回、楽しみに読ませて頂いております。(サル山班 川村登美子)

<素晴らしい仲間めぐり会えた>

ボランティアとは何か?も知らずに応募し、お客様にどの様に伝えたら良いのか戸惑いながらも、こども動物班・サル山班・は虫類班を経験する中で、多くの方々との出会いがあり、可愛い動物達との別れに悲しみ、様々な体験をさせてもらいました。10年間続けてこられたのは、素晴らしい仲間めぐり会えた事があると思います。これからも大好きな動物達に会えるのを楽しみに、少しでも長く続けていけたらと思います。(は虫類班 中島香代子)

<ボランティア10年を振り返る>

十年一昔というが動物園もすっかり変わり、園内の動物の多くが絶滅危惧種の動物に指定されております。動物も展示動物から繁殖を目的でなければ入手が困難と聞きます。中国ではアジアゾウを一級絶滅危惧動物として、パンダと同様な取り扱いになったと聞きます。40数年前、昭和30年頃は、夏は賑やかなセミの鳴き声、「ホロホロ鳥」の合唱、甲高いラッパ調の「アジアゾウ」、身震いするような「ハイエナ」の鳴き声等、様々な鳴き声が聞こえた動物園を懐かしく思う今日この頃です。(熱帯動物班 大地 淳)

< 円山動物園も改良が目立って嬉しい >

4年前、円山動物園協会が主催した5日間の「シンガポール動物園見学旅行」に、37名の仲間と参加しました。同園は国営で1973年に設立され、園全体を熱帯林と池で覆われ、仕切るための網や、柵がないオープンシステムで評判どおりの施設に驚かされました。また216種、3000点の動物を揃え、ナイトサファリも実施する等、珍獣にも逢えて満足な旅でした。円山動物園でも、最近部分的ではあるが、改良が目立って嬉しく思います。(熱帯動物班 廣川伊佐夫)

< 3姫に期待 = サル山の爺の真心より = >

サル山班のグループ活動は平成10年以来で今が一番と実感している。特に3姫の学習意欲とお客様の共感を導く手立てが素晴らしい。田中姫はサル山の飼育係の次ぎ位になれる実力でサル山博士を志しており、星原姫は万人とのコミュニケーション能力に優れた名優であり、川村姫は10年を超えたベテランで更なるスキルアップの20年生を目指す達人である。サル山はニホンザル達の生態や行動が人間社会に近似した様を映し出すので沢山の老若男女が集まってくることが特徴で、解説も雄や雌の第一位にまつわる『ボス物語』、人間も見習う価値がある『子育て物語』、思いやりの仲間意識が見える「べろ太」の『盲目物語』、「もひ太」の『網膜はく離物語』、「ゆり絵」の『浮気物語』、「はな子」の『お婆さん物語』、「蝶子」の『女親分物語』等々面白く興味深い。笑顔と感動が溢れるガイドの実践で、自己実現と社会貢献そして感動の案内人としての使命が達成されている事に敬意と感謝を捧げ、今後の活躍に大きな期待をかけている。

(サル山班 木暮久人)

< 園内の緑に癒される >

円山動物園のガイドボランティアをして早10年が過ぎました。アット言う間の10年でした。最初は思っている事が上手く話せませんでした。今でもそうですが。花子、バーさん、たかよ、スティーブ等々亡くなり悲しいです。私個人にも離婚、再婚、死別と波乱がありました。それでも止めずに続けているのは動物園が好きなのと園内は緑が多く心身が癒されるからだだと思います。足・腰が丈夫でお喋りが出来る間は、まだチェンジは先送りにしようと思います。

(熱帯動物班 藤川徳子)

< 節目10年の課題 >

ボランティア発足以来10年の経過を経て、現在、所属班の活動(ポイントガイド)を基盤として ツアーガイドへと水平展開し、ガイド対象の拡大と充実を園の指導と会員の努力により指向しているが 更に各種年間行事(七夕・ハロウィン・ボランティアの日等)の企画実施のほか 趣味・特技等会員の個性を活かした楽しく、かつ充実した活動を続けたい。

(熱帯動物班 田中茂雄)

< 喜びはお客様の「ありがとう」の言葉 >

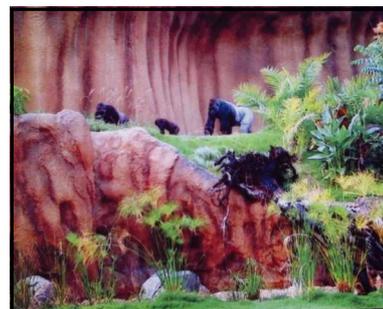
半年間のボランティア研修の中でコーディネーターの「家庭を壊してまでボランティアをしてはイケナイ」と言う一言が有ったから、ここまで続けられたと思います。色々あった10年で私にとっての大きな出来事は、マチカの完成。オランウータンはユキから弟路郎へ。まだ他に誕生会の形がなかった時にゴンの誕生日会をスタートさせた事と京都への旅立ち。人工飼育と云う特別な存在のレディー。3人の飼育員さんのエンリッチメント大賞授賞。ハロウィン開催。年間パスポート。悲しい動物達との別れ・・・そして変わらない喜びはお客様の「ありがとう」と言う言葉です。

(類人猿班 カフマン弘美)

< アメリカの動物園を回ってきました >

(その3 - ロサンゼルス LOS ANGELES ZOO)

2004年にオープンしたゴリラ舎。西中央アフリカのゴリラの生息地を模して造られたという "Campo Gorilla Reserve," 周りは高い岩で囲まれ、その間から流れ落ちる滝。その水は小川になって舎内をうねる。中央にヤシの木が2本、低い木が少々。手入れされた芝生の緑もまぶしい。が、ゴリラ達の動きをみていると同じ所ばかり移動。木に近づく者が居ない。4人家族と2人兄弟の住む2つの放飼場共よく見ると電気コードを巻いてある。キーパーさんに聞いてみた。「もっと木は植えないんですか?」と。「これで終わり。あまり植えるとゴリラが見えなくなるからね!」チンパンジーランチに行った。階段式の見学場にはもう人がビッシリ。ここでやっと日陰。ホッとする。ゴリラとチンパンジーのキーパーは合わせて7人。そのうちの2人がチンパンジーについて説明。高~い場所からエサを落とし始めると、ゾロゾロと10人程集まってきた。チンパンジーにしては静かにエサを拾うと又どこかに消えた。質問タイム。「おもちゃ等は与えてないんですか?」「ここはエンリッチメントを重要視しているので与えてませんが、裏には古いゲージがあり色々な遊び道具がありとてもカラフルですよ!」指さす方に歩きだすと、さっきまで私が見ていたのはほんの3分の1程で、かなり広いスペースに岩あり・滝あり・登れないヤシの木あり...で、それぞれのお気に入りの場所が有る様だ。裏のゲージには古い消防ホースで作ったジャングルジムやベッド。プラスチックのバケツがカラフル!人から見て緑のあるのがエンリッチメントなのだろうか...?



この後40の暑さに耐えきれず、エアコンの効いたレストランに入る。外にある売店では暑さによる蜂の異常発生の為、甘いもの(コーラ等のドリンクも)の販売をやめていた。(次号に‘その4’予定) (類人猿班 カフマン弘美)

特集記事 『動物のあれこれ』 (第5回目) (サル山班)

=サル山班から謹んでご報告します=

<多田孝男さんを偲んで=追悼の辞=>

生者必滅会者定離とはいえ、多田孝男さんが2月22日に急逝されたことは、あまりにも突然のことで驚き、自分の耳を疑いました。病名は急性心筋梗塞とのことで、北大病院における救急手術でも蘇生せず永遠のお別れとなりました。ご家族のご心情も如何ばかりかと推察されます。

多田さんは、北海道大学獣医学部卒業の獣医師として酪農乳業界で活躍され大きな功績を残されました。その後を選択された生き方が、円山動物園ボランティアの2期生として動物とお客様の架け橋の役割を担うことでした。その役割は十分に果たされ、さらに、サル山班の班長5年、重責のボランティア会代表世話役の2年間も見事に勤められ、立派なボランティアリーダーのひとりでありました。

また、昨年からはNPO法人札幌シニアネット(パソコンの技術普及と文化振興)の理事長の要職も務めておられました。極めて社会的に貢献度が高い重要な仕事の指導者を喪うことにもなり真に残念でなりません。

ZOOガイドボランティア仲間として、10年近い厚誼を頂いた一人として、惜別の情に耐え難い心境ではありますが、誇り高き多田さんの偉業を称えて、衷心より感謝の意を捧げ、謹んでご冥福を祈念申し上げまして追悼の辞とさせていただきます。(サル山班一期生 木暮久人)

<立ち位置をもとめて>

小学1年の孫に「じいじ、動物園で何やっていんの」と聞かれ「サル山にいるよ」と言ったら「ウン」で終わりました。なんとお互いに内容が貧弱で無意味な会話でしょうか。そうです、動物園にお世話になってから2回目の年度を迎えても、全くガイドの内容が分かっていないからです。ガイド講習終了時は「自分が楽しんで、それから来園者と楽しむんだ」と思っていたのがこれじゃ、先輩ガイドさんの歯ざしりが聞こえてくるのは当然です。なんばせんといかん、「中松」(オス第1位)群団へ、見ざる、言わざる、聞かざるを返して。見るぞ、聞くぞ、盗むぞ等に切り替えてやって見よう。ために、来園者同士の会話に傾聴し、目線と所作を追って興味を探す。そのことを職員・先輩ボランティアの知識と経験にぶつけて知ることが、他人任せの一挙両得と見つけたり。桜の色香がただよう風にまかせ、気分爽快に孫が喜ぶことから再スタートです。おいおい、人様より自分自身の観察から始めないと、いつまで経っても立ち位置はないよ。



人様より自分自身の観察から
(サル山班 伊藤博俊)

= 投函コーナー =



* 怖いー！ * 口の中にあるピンクの突起を動かして、獲物を誘い、寄ってきたところ一気にくわえこみます。三笠市の川で発見されたワニガメで怪獣ガメラのモデルです。現在、爬虫類館に展示中です。(爬虫類班 藤田叶子)

* 珍客 * リニューアルした熱帯鳥類館にインドネシア原産のカムリバトが入園。頭部に見事な扇状の冠羽を広げて優雅な姿を見せています。同時にキュウカンチョウ2羽も来園し迫力ある鳴き声をたてています。(熱帯動物班 田中茂雄)

* ポカポカ暖かトカラヤギ * トカラヤギはお日様が大好き。こども動物園の中でも一番ポカポカする場所陣取っています。濃い茶色の体にそっと触れると驚くほど暖か。太陽の日差しをたっぷり蓄えているんですね。

(こども動物園班 西川明子)

* 只今参上！ * ミニホース散策の男五人衆。列をなし颯爽と登場、注目の的です。(サル山班 田中一江)

* 似てるかな？ * チンパンジー「レディ」の木彫りを発見。本物そっくりで可愛いです。(熱帯動物班 水戸久仁子)

編集後記

今回はニュースレターが発行から10年目に当たり、第40号を迎えました。その記念として2ページ増の上、ボランティア一期生の「10年間の想い」等の記事を集めて頂きました。少ない字数での投稿依頼にご協力を感謝致します。去る2月22日、編集スタッフの多田孝男さん(サル山班)が急逝されました。多田さんはニュースレター13号から編集に携わり今日迄ご指導を頂いた大恩人で大変残念に思います。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(次号は7/16が原稿締め切り予定です)

編集スタッフ：山川泰弘 西川明子 松山幸子 小熊 瞳 田中一江 星原恵子 藤田叶子 紺野仁一 水戸久仁子

大地淳 田中茂雄 伊藤 剛

編集責任者：丹野健治(TEL/FAX 011-232-8151) 佐藤正俊